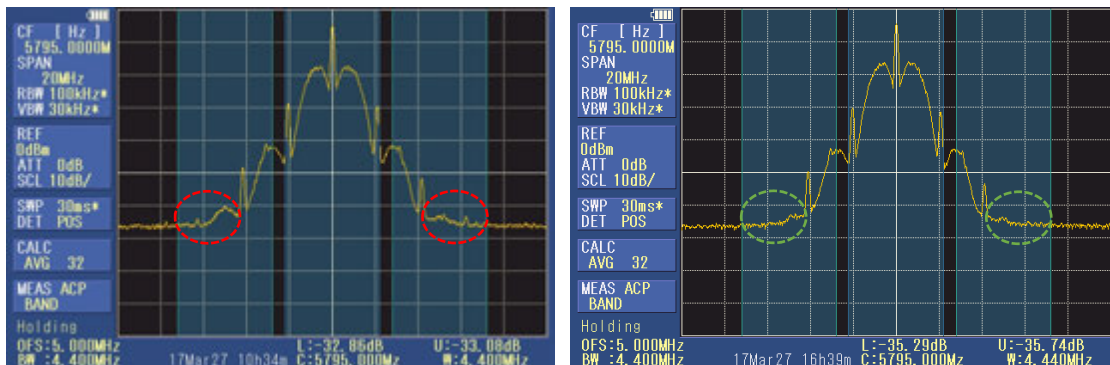


RF送信アンプの歪みと隣接チャネル特性

高い周波数の送信アンプでは、その歪みが大きいと、波形が歪んで隣接チャネルへ漏れる不要な電波が大きくなります。アンプ特性改善の効果を見るには、隣接チャネルへの影響を数値で確認する必要があります。MSA500 シリーズを用いれば、これを簡単に確認することができます。

以下に、5.8GHz 帯送信アンテナ端の電力を示します。



ACP(隣接チャネル漏洩電力)測定モードで、隣接チャネルへの漏洩電力量を確認します。

左図では、キャリア周波数の-5MHz、+5MHzのそれぞれ±2.2MHzにおけるACP比は-32.86dBc、-33.08dBcですが、アンプ特性を改善した右図では、-35.29dBc、-35.74dBcとなり、隣接チャネル特性が改善されたことがわかります。



シグナルアナライザMSA500シリーズは上記の“隣接チャネル漏洩電力”の他にも“チャネルパワー測定”、“占有周波数帯幅測定”、“電界強度測定”、“磁界強度測定”、“ノイズ測定”など様々な測定モードを備えており、必要な機能を簡単に呼び出して使用することができます。

MICRONIX

マイクロニクス株式会社

〒193-0934 東京都八王子市小比企町2987-2

TEL.042(637)3667 FAX.042(637)0227

URL: <http://www.micronix-jp.com> E-mail: micronix_j@micronix-jp.com